

JCNE助成金活用セミナー

「助成金が決まったら・・・」

(一財) 非営利組織評価センター 山田泰久
Twitter : @canpan2009
<http://www.facebook.com/yamadamay>

2023年3月Ver.02

プロフィール：山田泰久（やまだやすひさ）

公益財団法人日本非営利組織評価センター 業務執行理事

寄付月間 推進委員会委員／共同事務局事務局長

一般社団法人全国コミュニティ財団協会 監事

イシス編集学校（松岡正剛氏主宰） 師範代

群馬県高崎市出身、慶應義塾大学文学部卒（フランス文学専攻）。

1996年日本財団に入会。2009年から公益コミュニティサイト「CANPAN」の担当になり、NPO×情報発信、助成金、IT活用、寄付をテーマに様々なNPO支援の活動に取り組む。

2016年4月、（一財）非営利組織評価センター（JCNE）の設立とともに、業務執行理事に就任し、非営利組織の組織評価・認証制度の普及にも取り組んでいる。

※2022年11月に公益財団法人化&名称変更。

twitter: @canpan2009

Facebook <http://www.facebook.com/yamadamay>

note <https://note.com/yasuhisayamada>

CANPAN講座 <http://blog.canpan.info/c-koza/>

JCNE・NPOフォーラム <http://blog.canpan.info/cpforum/>

情報発信のこともやっています。

セミナーだけでは伝えきれないことを本にまとめました。

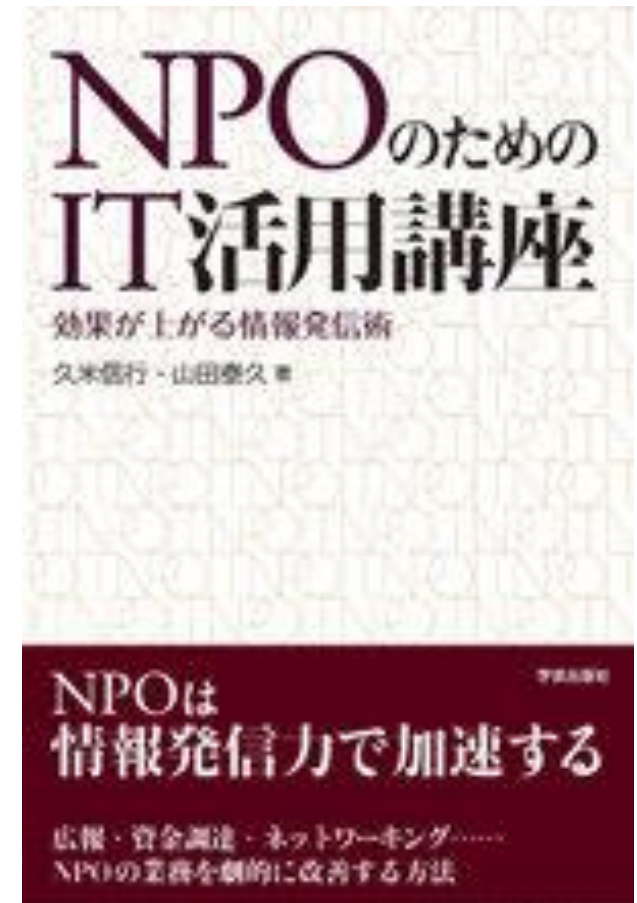
NPOのためのIT活用講座
～効果が上がる情報発信術
久米 信行 著 山田 泰久 著
学芸出版社



四六判・224頁・定価 本体1800円+税

■■ 内容紹介 ■■

「お金が足りない」「忙しい」「どんな情報を発信していいかわからない」…そんなアナタに、無駄な手間とコストをかけず、個人・団体としての活用を使い分け、広報、資金調達、マーケティング、キーパーソンとのネットワーキングなど、NPOの業務に劇的な効果をもたらす方法を、二人の達人が豊富な事例をもとにお伝えします。



日本非営利組織評価センター（JCNE）

2016年4月1日、全国の非営利組織の評価を行うことで信頼できる組織の情報を広く社会に発信し、支援環境の充実に寄与するために非営利組織評価センター（JCNE）を設立しました。

チャリティの歴史が長い諸外国では、第三者である評価機関が寄付等を受けて活動する団体の運営状況を評価認証し、結果を公開しています。日本でも同様の非営利組織の評価が必要な時期になりました。

この非営利組織評価センターは民間セクターの手で作りたいという願いから、多くの団体に設立のご支援をいただきました。株式会社をはじめ助成財団、NPO、一般法人といった多様な設立発起人からのご出捐。そして賛同パートナーである助成財団からの応援を得ています。さらに5年後の自立を目指し事業運営には日本財団の助成をいただいています。

組織マネジメントに関する第三者評価



グッドガバナンス認証

JCNEの独自の評価基準に基づき、専門の評価員が団体を訪問し、ヒアリングや書類確認によって組織運営の状況を評価しています。その評価結果をもとに、非営利組織の中でも組織運営やガバナンスが一定水準以上のレベルの団体を認証しています。グッドガバナンス認証団体は外からは見えにくい組織内部の状況を第三者機関に開示して、信頼性・透明性の向上に努めている団体です。また、課題がある場合も見直し、改善をしていく姿勢や意欲のある団体でもあります。寄付をしたい、ボランティアとして参加したいという市民や企業の方が、期待をかけて支援ができる団体として紹介しているのが「グッドガバナンス認証団体」です。

https://jcne.or.jp/evaluation/good_governance/



グッドガバナンス認証

ベーシックガバナンスチェック

JCNEの独自の評価基準に基づき、団体運営の基本についてセルフチェックと提出書類をもとに簡易的に評価をしています。評価結果は「ベーシックガバナンスチェックリスト」で公開され、随時更新されます。継続的に第三者評価を受け、情報開示に積極的な透明性の高い団体として、JCNEは掲載団体への支援を推奨しています。

ベーシック評価基準23項目に基づく簡易的な組織評価です。

<https://jcne.or.jp/evaluation/outline/>

寄付月間：毎年12月

欲しい未来へ、 寄付を贈ろう。

欲しい未来へ、寄付を贈ろう。



一年の終わりに、考えたいのは未来のこと。

もっと楽しい未来。もっと優しい未来。

もっと平和な未来。もっと多様性が認められる未来。

そんな未来を手にするために、あなたの気持ちを寄付にしよう。

寄付は意思、寄付は投資、寄付は応援、寄付は願い。

寄付で未来は変えられるのです。

だから、「Giving December」。

一年の終わりに、未来を考え寄付をする。

そんな習慣を、はじめたいと思います。

欲しい未来を叶えてくれるさまざまな取り組みに、

あなたの想いを託しましょう。

さあ、年の終わりに、新しい「寄付」がはじまります。

欲しい未来へ、寄付を贈ろう。



寄付月間～Giving December～について

寄付月間とは

寄付の受け手側が寄付者に感謝し、また寄付者への報告内容を改善するきっかけとなり、そして多くの人々が寄付の大切さと役割について考えることや、寄付に関心をよせ、行動をするきっかけともなる月間を制定する。

推進委員会

委員長 小宮山宏 三菱総研理事長/元東京大学総長

共同事務局長 山田泰久 一般財団法人非営利組織評価センター 業務執行理事

民間非営利組織、企業、行政、国際機関などで寄付に関連する取り組みをしている全国代表的な機関の代表者が集まり、35名の推進委員会を構成 各法人の有志による共同事務局を設置して、寄付月間の統一ロゴ作成や各方面との連携による全国的周知による啓発活動、イベント開催や賛同パートナー（無料）の拡大などを行います

その他

・社会課題の解決のための寄付の促進が本委員会の設立の背景にあるが、寄付の定義は、寄付者個人によって違いがあり、多様性を許容する観点から、寄付の定義について委員会としては明確な排他性をもたない。

・本委員会、寄付月間参加は、各主体の自発性に基づくものであり、何ら強制的な要素を含まない。また、特定団体や特定課題への寄付を要請するものではなく、委員会としての政策提言を目指すものではない。



いますぐ体験!



ネットで

編集力チェック 無料

編集力とはどんなもの? イシス編集学校の稽古を無料で体験できます。ウェブから申し込むと「お題」がメールで送られてきて、回答を返信すると、師範代から指南コメントが届きます。

▶ <http://es.isis.ne.jp/web.html>



リアルで

ISISエディットツアー

ブックサロンスペース「本楼」ほかユニークな書棚空間を巡りながら、編集的な体験を楽しむツアーです。映像や座談、ワークショップを交え、アタマもココロもやわらかくする2時間のプログラムで、「編集」のエッセンスを体感。イシス編集学校の編集稽古も体験できます。

● 毎月開催、日程限定。 ● Ticket: 1,500円(税別)

▶ <http://es.isis.ne.jp/edittour.html>



詳しくはイシス編集学校ウェブサイトをご覧ください。 <http://es.isis.ne.jp>

資料請求・お問合せ・お申込は

イシス編集学校 学林局

front_es@eel.co.jp

本日も話すること

4月は昨年秋に助成申請を行った事業の助成金が決まって事業を開始するタイミングです。その時に、どんなことをすればよいのか、何に気を付けなければいけないのか、助成金だからこそ取り組んだ方がよいことは？など、考えなければいけないことばかりです。

そこで、団体や事業を成長させるための助成金の活用という観点から、助成事業開始時にやるべきことをお伝えいたします。助成金を活用することで、どのように組織基盤強化につなげていくことができるのかを学ぶことができます。

第1部：助成金の活用(40分)

第2部：ベーシックガバナンスチェックのご案内(10分)

第3部：質疑応答

お話しをする前に・・・①

助成金に関する基礎知識は、以下のページの掲載資料参照

<http://blog.canpan.info/c-koza/archive/517>



【基本】初級～上級

1. 助成金の全体像を把握する

助成金の活用2014_セミナー資料_基礎編.pdf

2. 助成金というものがどういうものか、その基本を知る

助成金セミナー基礎編_日本財団荻上.pdf

3. 助成金申請から事業報告まで、助成金に関する一連の流れとやることを学ぶ

助成金活用マニュアル_日本財団荻上.pdf

【応用】中級～上級

4. 助成金を活用するという視点で、あらためて助成金の可能性について学ぶ

助成金の活用2017_セミナー資料.pdf

5. その他、申請から事業実施まで、助成金について参考なると情報を知る。

助成金の活用2014_参考資料.pdf

お話しをする前に・・・②

助成金について学ぶために参考になるサイトや資料など

1. (独法)福利医療機構 WAM助成

<https://www.wam.go.jp/hp/cat/wamjosei/>

助成金に関するノウハウ集や事業評価報告書など参考になる資料が豊富

2. あいちモリコロ基金の調査・評価(基金の運営&助成活動の成果)

https://www.morikorokikin.jp/7_chosa/chosa.html

10年間の助成プログラムの総括報告書が助成金の考え方を学ぶのに最適

3. IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所]

ソシオ・マネジメント第4号「成果を最適化するための助成プログラムのコミュニケーション調査」

NPOマネジメント(バックナンバー)

<http://blog.canpan.info/npomanagement/>

ソシオ・マネジメントは助成財団向けの内容だが、助成金をさらに詳しく学びたい方にお薦め。

助成金が決まったら・・・

①助成金の意義と役割

①助成金のルール

- ・お金の管理の仕方

②団体内部での事業体制

③事業報告書の様式から考える助成財団の期待

④事業成果を意識した事業の準備

（事業評価のスキームを利用する）

⑤事業を始める前に現状確認

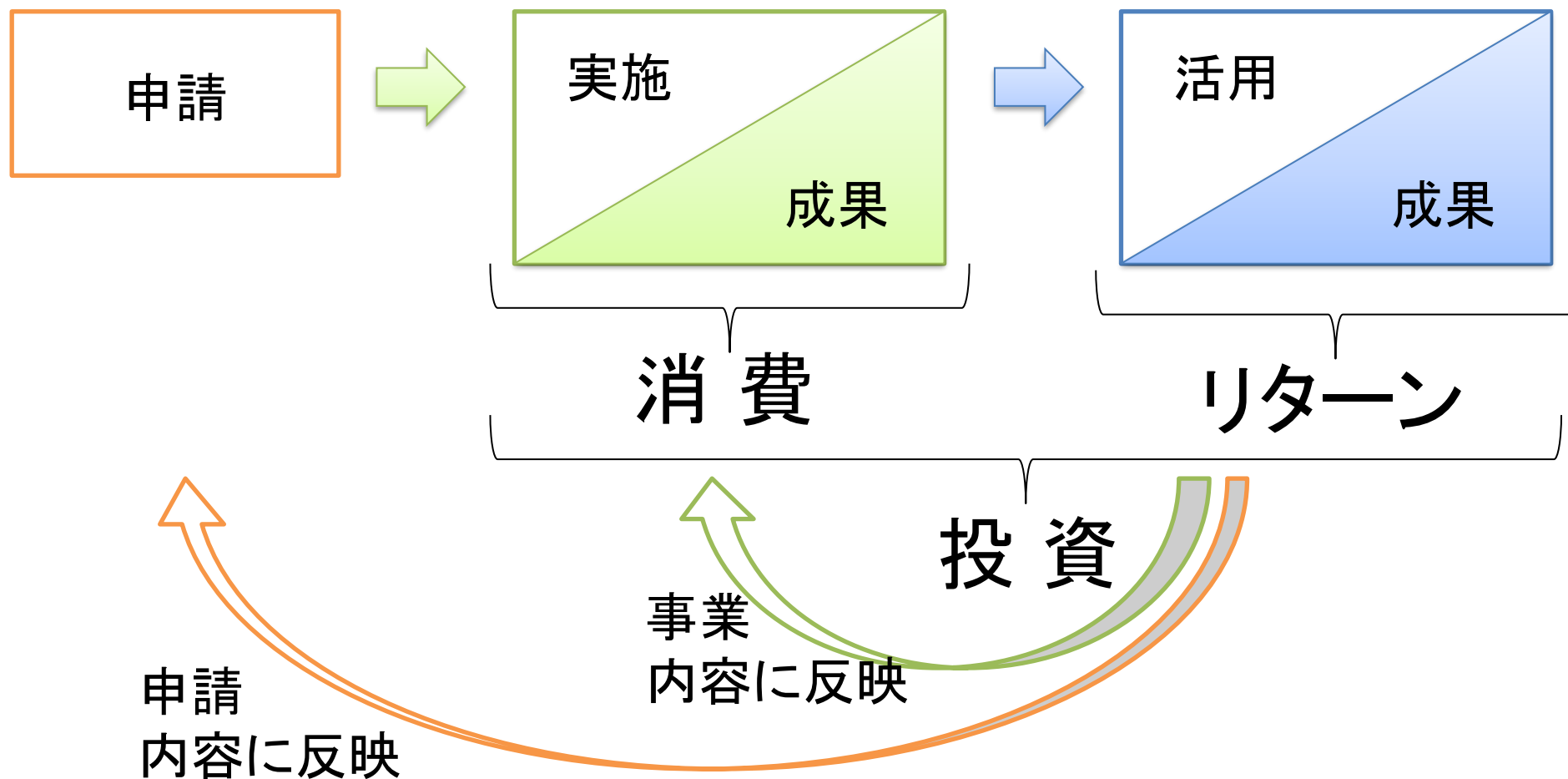
⑥事業完了後を意識した事業構築

⑦助成事業を広報に活用する

⑧助成財団とのコミュニケーション

助成金の活用

社会課題の解決の一助になることと、持続的に事業や組織を発展させていくことを目指して、助成金＋様々なリソースを投入すること



NPOの資金調達

事業内容によって適している資金調達がある

- ①今の活動にフォーカスして集める寄付
- ②今後の発展を計画して申請する助成金
 - ・助成金があるうちに継続できる体制、ビジネスモデルを構築する
 - ・助成金で試してみる(仮説検証をして、成果を生み出し、実績を作る)

継続性資金

自治体等の制度的な補助金や、企業や個人の寄付等

受益者数や地域の変化などの成果が目標

成果を出し続けることで、継続的な支援が得やすいお金

単発性資金

民間の助成金や省庁の補助金、クラウドファンディング等

仕組みやハード、モデル事業などの「残るもの」が目標

よい成果を出しても、性質上、継続的な支援が得にくいお金

クイズ：寄付と助成金

あるプロジェクトの活動資金として、100万円がほしい。

あなたの団体はどの方法で資金調達したいですか？

A. 100名の市民から、一人1万円の寄付で計100万円

B. 助成金で100万円

外部の資金源の付加価値

信頼の付加価値

→「誰からもらっているか」という評判・信頼

ネットワークの付加価値

→資金源が持っているネットワークを活用できる

事業づくりの付加価値

→資金源が持っているノウハウを提供してもらえる

事業後の付加価値

→成果を上げることで団体の実績になる

→関係が構築される

助成金の付加価値

信頼の付加価値

→助成機関からもらっていることによる信頼度向上、実績作り

ネットワークの付加価値

→助成機関が持っている活動分野間のネットワーク

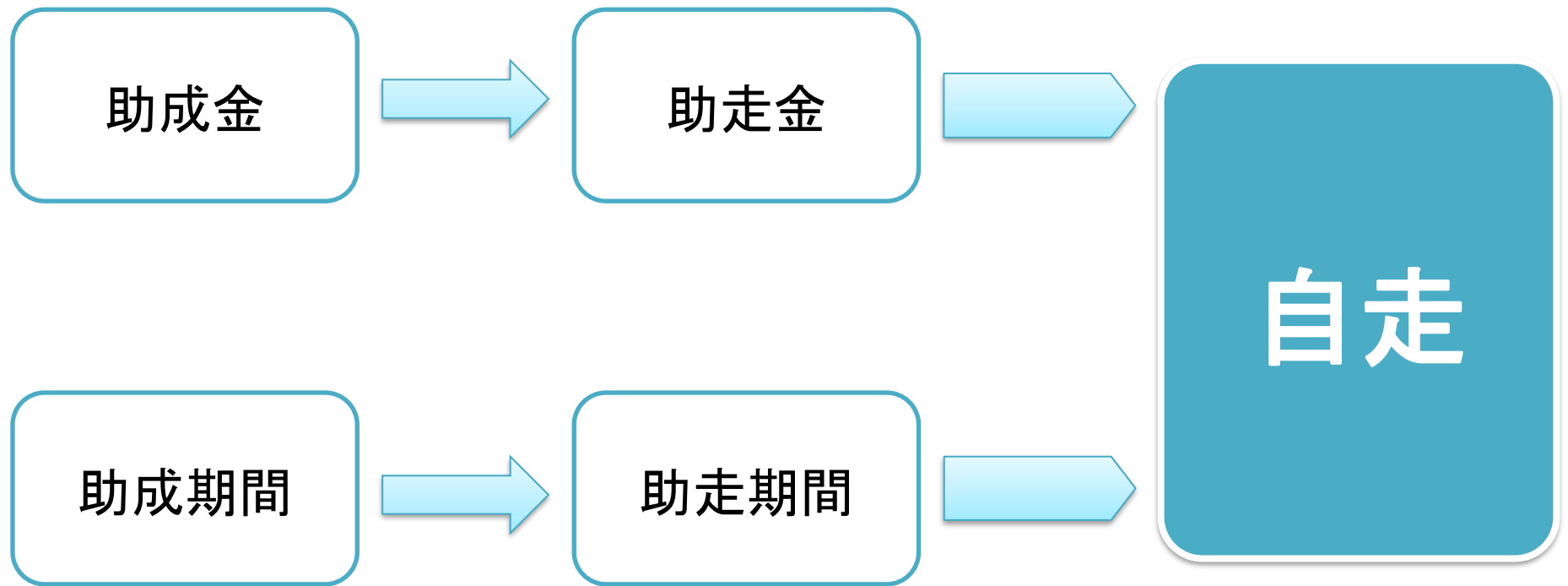
事業づくりの付加価値

→助成プログラムを通じて助成機関に蓄積された、持続的で波及性のある事業づくりのノウハウや視点

事業後の付加価値

→成果を上げ報告することで、団体のことをさらに詳しく知ってもらい、その成果を代わりに宣伝してもらえ

助成金のイメージ・チェンジ



助走というプロセスで「力」を蓄え、大きくジャンプ(成果)する。
その後も自走できる実力をつける。

助成金のPDCAサイクル

PLAN

事業計画を考える
助成金申請を行う



DO

事業を実施する
成果を出す



CHECK

事業を評価する
ノウハウをまとめる



ACTION

実績を公開する
事業成果を活用する



翌年度
事業へ

- ◇ 事業の改善
- ◇ 事業の拡大・発展
- ◇ 地域や社会への影響
- ◇ 収入化

助成金のルール

助成プログラムの実施の手引き、ガイドブック

★助成プログラムによってルールが違う！

①お金の管理

- ・会計システム上での経理区分
- ・助成事業としての予算管理
- ・対象外経費
- ・自己負担の確保と、予算オーバーの時の対応
- ・予算変更(予算書にない支出、費目間の流用など)
- ・団体の会計の費目と助成金の費目の整合性
- ・収支報告書と領収書
- ・返還のリスク

助成金のルール

助成プログラムの実施の手引き、ガイドブック

②計画と実行

- ・事業計画の許容範囲とは？
- ・早め早めの事前相談

③助成表示

- ・助成表示は、助成財団にとってはステークホルダーへの説明責任
- ・次の助成申請発掘のためのPR

④報告書

- ・事前に内容、様式をチェック
- ・中間報告の有無の確認

事業の実施

- ① 団体内部での事業体制
- ② 事業報告書の様式から考える助成財団の期待
- ③ 事業成果を意識した事業の準備
(事業評価のスキームを利用する)
- ④ 事業を始める前に現状確認
- ⑤ 事業完了後を意識した事業構築

JCNE助成金活用セミナー「助成財団との付き合い方」

日時: 2023年2月8日(水) 19:00~20:00

<https://jcne.or.jp/2023/02/11/report-20230208/>

JCNE助成金活用セミナー「助成事業のまとめ方」

日時: 2023年1月12日(木) 19:00~20:00

<https://jcne.or.jp/2023/01/15/report-20230112/>

活動を持続的に行っていくために

助成金をきっかけに

- ①コストを下げる
- ②自分たちでできるようになる
- ③活動の仲間を増やす
- ④連携先・協力先を増やす
- ⑤応援者を増やす
- ⑥参加者を仲間にする
- ⑦実績をつくってアピールする
- ⑧積極的に情報発信を行う

地元で／インターネットで

助成事業による良い効果

【団体内への影響】

- ① 社会実験(仮説)の実証
- ② 事業規模・財政規模の拡大
- ③ 会費や寄付の増加
- ④ 担い手や協力者の増加
- ⑤ 担い手の力量(質)向上
- ⑥ 団体の認知度や信頼度の向上
- ⑦ 他の助成金の獲得
- ⑧ 行政との関係構築、委員、講師、協働、業務委託、指定管理等
- ⑨ 新たな支援者の獲得

【社会や地域、対象者への影響】

- ① 社会のニーズ・課題の周知啓発
- ② 事業の対象者・受益者のエンパワメントや社会参加
- ③ 市民の社会貢献の機会提供
- ④ 地域の協力体制の構築、関係作り
- ⑤ ノウハウや情報の共有・発信
- ⑥ 他地域、他団体が同事業を実施
- ⑦ 行政でモデル事業化
- ⑧ 行政で施策化、制度化

【自主財源の構築】 ★次年度以降の自主財源率向上を目指す

- ① ビジネスモデル化
- ② コンサルによる収入
- ③ 知見やノウハウの価格設定と提供
- ④ 他地域展開モデル
- ⑤ 成果物の販売
- ⑥ セミナー・研修会のパッケージ化

自主財源や事業収入化の構築

【方法】

サービス構築
ビジネスモデル構築
寄付モデル構築
協賛事業
コンサルティング
ノウハウ価格設定
他地域展開モデル
成果物の販売
研修パッケージ
講師派遣
協働
補助事業
制度事業
業務委託



【準備】

実証実験
事業の記録
ノウハウの記録
事業の発信
ノウハウ等の成果物報告会の開催
成果の共有



【対象】

参加者・受益者
一般市民(寄付者)
企業(顧客)
企業(寄付者)
行政
教育機関
NPO

助成金による資産作り

助成事業のプロセスを通して、5つの資産を作る

- 【人】 協力者、参加者、人材養成
- 【モノ】 備品、Webサイト、テキスト、施設、設備
- 【仕組み】 低コスト化／事業収入／ノウハウ移転で収益
- 【ネットワーク】 助成機関、行政、他セクター、専門家
- 【ノウハウ】 事業の専門性、組織マネジメント

事業終了後も活用できる資産を作る

助成金の考え方のトレンド

1. 関係性で捉える

- ・受益者を取り巻く地域や社会の中で課題を捉える
- ・関係する人や組織を洗い出し、事業のポイントを見極める

2. 事業評価で成果と改善を目指す

①状況分析

事業開始前の地域の状況と受益者の状況

②目標設定

行為目標: 具体的な実施内容、スケジュールやその事業のステップごとの目標

成果目標: その事業全体を通じて達成したい状況や成果

③振り返りとまとめ

活動→結果→変化→成果→評価→改善

報告や成果のまとめ方

行為目標: 具体的な実施内容、スケジュール

その事業のステップごとの目標

成果目標: その事業全体を通じて達成したい状況や成果

【とりまとめ→自己分析→自己評価→未来予測】

①結果報告(行為目標)

- ・活動実績のまとめ
- ・アンケート結果のまとめ
- ・事業のプロセスの分析(目標と実績のギャップ)

②成果報告(成果目標)

- ・事業による変化の分析(目標と変化のギャップ)
- ・結果から成果への分析
- ・ヒアリングの実施とまとめ
- ・自己完結の分析・評価

③付加価値情報

- ・波及効果の分析、事業の改善策とネクスト・ステップの作成
- ・ノウハウ集のまとめ

あらためて助成金を考える

お金以外の助成金の価値、助成金の意義

- 自分たちの団体・事業が他人に認められたということ
- 助成金は単なるきっかけ、このきっかけをどう活かすか
- 団体内のモチベーションアップ、スキルアップに
- 「助成事業」という名のキャンペーンを通じて、自治体関係者、公益分野関係者、助成機関関係者等に、団体の周知を図る

★助成金を情報として活用する

インターネットによる変化

誰もが情報発信出来る時代になり、情報開示が当たり前

→助成機関のアカウントビリティ(説明責任)として、助成先団体による情報開示も求められている

リアルタイムの情報発信に

→Webで事業の進捗段階から情報発信する形へ

情報発信も量から質の時代へ

→質のよい情報発信が必要、助成機関も助成先団体も

助成金という情報

助成金を「情報」として捉え、その情報をどう活用するか？

そのために何をすればよいか？

- ①助成金が決定したら
- ②事業の準備を始める時に
- ③事業の進行中は
- ④もしイベントをするなら
- ⑤事業が完了したら
- ⑥次の助成金申請に向けて

①助成金が決定したら

・助成金が決定したことを発信する

◆ホームページ、会報誌、メルマガに掲載する

◆ソーシャルメディアで発信する

◆CANPANなどの団体情報データベースの実績欄を更新する

→周囲への宣言になる

→内部のモチベーションアップ

→オープンなところに、人が集まる

→助成機関スタッフも意識してくれる

②事業の準備を始める時に

- 広報・情報発信計画を策定する(体制、内容、スケジュール、情報公開の範囲など)
- 進捗報告を行うためのブログを用意する(もしくはブログでカテゴリ設定を行う)
- 事業の中で大きなイベントを行う計画がある時は、この時点からソーシャルメディアのアカウントをあたためておく
- 関連分野の情報収集のためのRSSなどにキーワード登録を行う
- Twitterのキーワード検索を登録する

→情報収集と発信の準備をする

③事業の進行中は

- ・組織内で積極的に情報共有を行う
- ・オープンにできることはオープンに
- ・進捗をブログで報告(内部の情報共有にも活用)
- ・マスコミに取材してもらいやすいきっかけを作り、プレスリリースを発行する

→事業の進捗時から積極的に情報発信することによって、事業と団体に関して認知度を高める

③事業の進行中は（ブログ編）

ブログ活用

- ブログに活動実績を蓄積していく
- キーワード検索を意識した記事作成を心がける
- ブログは助成機関関係者も含めた状況報告として活用する
- 途中からプロジェクトに関わった人の情報共有のツールとする
- 助成事業の事業報告書の元ネタとなることを意識して、ブログ記事を作成する
- ブログに掲載することを意識した写真撮影を行う（特に写真は後の事業報告書作成に活用出来る）
- ブログそのものが事業の成果となることを意識する

③事業の進行中は（その他編）

その他のツール活用

- インターネットやマスコミで情報流通しやすい成果物、あるいは成果発表会の形を検討する
- 成果物は「〇〇市の子育て白書」というようなイメージしやすいものにする（マスコミで取り上げられることを意識して）
- 事業と団体の周知のために、事業の成果を伝える報告会を開催することも視野に

④もしイベントをするなら（告知編）

- ・集客周知にソーシャルメディアを活用する
- ・メルマガでも、しっかり告知する
- ・NPO系のイベント告知サイトを活用する（例えば、CANPANのトピックスに掲載すれば、自動連携でYahoo!ボランティアに掲載される）
- ・NPOセンターやボラセンの掲示板、メルマガに掲載してもらう
- ・マスコミへのプレスリリースを発信する（取材と告知の依頼を使い分ける）
- ・助成機関にダメもとで周知を依頼してみる
- ・助成機関のスタッフもしっかりお誘いする（参加してもらって活動をより深く理解してもらえるチャンス）

④もしイベントをするなら（報告編）

- ・イベントは集客、中継、報告の3回の情報発信チャンスを活用する
- ・ノウハウ的なセミナーや活動報告会であれば、ブログに報告記事をしっかり書く(実績作り)
- ・楽しみながらのイベントであれば、写真を中心とした報告をブログに行う
- ・どちらのイベントにしても、Facebookでは、当日中に写真を中心に開催報告と参加のお礼を写真中心で行う(参加者にシェアされやすい)
- ・参加者にメールでブログの報告記事をお知らせする

⑤事業が完了したら

- ・事業報告書を作成し、公開できるものは公開する
- ・特に助成金でどのような成果が出たかをしっかり掲載する
- ・事業のノウハウを成果物としてまとめ、公開する
- ・成果物や報告書は抜粋版も用意してより広く知ってもらおう
- ・自社メディア、ソーシャルメディア、マスコミへの露出・告知を図る
- ・公式サイト、ブログで事業の成果をアピールする
- ・事業報告会のようなイベントを開催する

⑥ 次の助成金申請に向けて

事業の途中で次の助成金申請の時期になってしまう

- ・進捗報告でしっかりアピールする必要がある
- ・特に継続事業で申請する場合はそれまでの進捗をしっかりとWebに掲載する

(例えば、4月に助成金が決定して、10月には来年の助成金申請をするので、半年分の進捗と成果をしっかりと発表する。)

助成金とは・・・

樹木は育成することのない
無数の芽を生み、
根をはり、枝や葉を拡げて
個体と種の保存にはあまりあるほどの
養分を吸収する。

樹木は、この溢れんばかりのの過剰を
使うことも、享受することもなく自然に還すが
動物はこの溢れる養分を、自由に
嬉々としたみずからの運動に使用する。

このように自然は、その初源からの生命の
無限の展開にむけての秩序を奏でている。

物質としての束縛を少しずつ断ちきり、
やがて自らの姿を自由に変わっていくのである。

**“デンマーク王子アウグステンブルク公にあてた
美学的なことに関する書簡第27号より一部を抜粋”
フリードリヒ・フォン・シラー**



横浜／ランドマークタワー